

# グローバル・パートナーシップの展開

## —Martin Middle School の訪問を通して—

広島大学附属三原中学校 教諭 松尾 砂 織

### 1. はじめに

1999年5月から3ヶ年計画で始まったグローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト (Global Partnership School Project = 以下GPSP) は、今年度で3年次を迎えた。私が訪問した「マーチン・ミドル・スクール (Martin Middle School)」は「ターボロ (Tarboro)」にある公立中学校である。同校とは昨年度に学校長 Mr. Wayne Miller と他3名の教諭が本校を訪れた際、姉妹校提携の結んだ経緯がある。来校した3名のうちの2名は過去2年間GPSPを推進してきた教諭だが、訪問後に学校を去ることが決まっていた。今年6月に Dr. Don Spence と Dr. Ledford が今後の展開のために本校を訪れたが、引き継ぎや、コンタクト・パーソンが誰なのか具体的な話は聞けなかった。7月下旬にコンタクト・パーソンが Ms. Jann Knighton だと分かった。彼女は昨年度の6月に学校長と本校を訪れていた。こうした経緯を経て、平成14年8月20日～24日の日程で、本校から私が Martin Middle School へ訪問した。

### 2. 学校訪問の日程変更の経緯

当初4日間の学校訪問が2日間に変更されていたのが分かったのは、現地に行ってからであった。コンタクト・パーソン Ms. Jann Knighton は今年8月から Martin Middle School を去り、Tarboro にある公立小学校 PATTILLO A<sup>+</sup> School と公立高等学校 Tarboro High School の両校での勤務となり、Martin Middle School に籍がないことが分かった。更に学校長 Mr. Wayne Miller も学校を去り、8月から新校長の下で学校が動いていた。このような事情があり、学校訪問の日程がコンタクト・パーソンの勤務実態に合わせて変更され、1日目と最終日は彼女の勤務校2校を訪れ、中2日間を Martin Middle School で過ごしたため、公立学校3校を観察することになった。

### 3. Tarboroの公立学校の様子

#### (1) Martin Middle School (8月21日～22日)

#### ①学校全体の様子

来校するとすぐ全校放送が流れた。放送で私の紹介がされ、二日間滞在するという説明があった。二日間の日程はすべて計画されており、一日目は7学年の授業観察、二日目は8学年1クラスと7学年の選択授業(日本語)2クラスの授業実践が組まれていた。校内のエスコートは生徒が行い、授業と授業の移動時間が5分間というタイトなスケジュールをエスコートの生徒と共に体験することになっていた。新校長は自ら生徒指導を指揮し、授業中も常に校内、教室内を巡回する徹底ぶりであった。また、他の教職員も同じ動きをすることで、学校中の意識統一が図られていた。生徒は授業中も休憩中も非常に落ち着いていた。

#### ②生徒の一日の学校生活の様子 (21日の授業観察を通して)

登校から下校までの生徒の一日の様子を観察した。7学年は1クラス26人前後だった。7時50分から home base class がある。全校生徒はクラスごとに「Channel 1 (教育テレビ)」を見て自分の意見を書き、担任に提出している。書く力をつける目的で全校の取り組みとして行っており、生徒のノートには担任からのコメントが毎日記入されていた。

8時15分より1校時の授業が始まる。参観したクラスでは、前時の復習は教師の音読で始まり、本時の導入では、生徒の意見を多く引き出す発問が工夫されていた。その後20分間の読書タイムでは、生徒は思い思いの姿勢で読書をしていた。読む時間を確保し、それを習慣化させながら、生徒の識字率を上げる取り組みをしている。

3時間目は選択授業で、エスコートの生徒が所属する Band の授業を参観した。全体指導、楽器ごとのパート指導、個別指導を行うなど、きめ細かい指導をしていた。昼食はカフェテリアを使用し、使用時間は学年ごとに決まっている。7学年は11時25分からで、並んで移動し、クラスごとにまとまって食事をする。食事中も常に教員が生徒のそばを離れず、校長もカフェテリアで食事の指導をしていた。

11時25分から8年生の数学を参観した。OHPを使って黒板に32問の練習問題をうつし、順番に問題を解かせていた。Keyboardingの授業では、基本の指の位置をOHPで確認してから、ブラインドタッチの実技指導を行っていた。23人に対して1名で対応し、個別に指導する場面が多かった。Martin Middle Schoolでは複数教員によるTTの授業はなかった。

### ③職員との交流

学校訪問初日に全校職員会議に参加した。議題提案はすべて校長からの伝達形式で、内容は教育委員会からの通達、奨学金や予算のこと、生徒指導に関することで1時間の会議だった。会議の中で三原中学校とは昨年度に姉妹校提携をしているという説明があった。

各学年の学年会にも参加した。日程の中に2日間ではほぼ全職員と顔合わせができるような場が設定されていた。内容は7・8学年それぞれの学年会への出席、メディアセンター職員や選択教科の教員とのビデオ鑑賞会、カウンセラーとの昼食である。学年会とビデオ鑑賞会では、三原の学校紹介ビデオ鑑賞が義務づけられていたようだ。7・8学年の学年会では生徒指導上のこと、各人からの議題提案なども含んでいたため、時間に追われてしまいビデオでの学校紹介にとどまった。選択教科の職員は複数の勤務校で働く人が多く、全員が揃うことはなかったが、ホームルームクラスを持っていない点で、多少の時間的なゆとりがあったため、三原の勤務態勢について質問を受けた。アメリカでは通常、職員は勤務終了時間(15:00)がくるとすぐに帰宅し、遅くまで残る教員はいない。

職員と話をすることで、多くの教職員が三原中学校の存在を知らないこと、しかし多少の興味はあることが分かった。多くの職員と顔を合わせる機会を得られたことで、GPSPを学校の中の共通認識として位置づける一歩になってくれればと思う。

### ④授業実践を通して分かったこと

22日の午前中に3時間ほど授業実践をした。三原中学校の学校紹介ビデオを上映し、見た感想を生徒に話してもらい、ビデオレターを作成する流れだった。1校時の8年生のクラスでは、ビデオを見た後ペンパルを希望するなど、交流に興味や関心を示す生徒が多かった。授業後に多くの生徒がカタカナで自分の名前を書いてほしいとやってきたが、次の授業の移動が5分間で完了ということもあって、この要望には応えられな

かった。2～3校時は7年生の選択授業(日本語)だった。日本語の先生であるMr. YamamotoはJannと同じTarboro High Schoolで2クラスを担当しており、事前打合わせは前日に行っていた。Martin Middleの生徒から簡単な自己紹介が日本語と英語の両方であり、私はそれをビデオレターとして録画した。その後三原の学校紹介のビデオを上映し、日本で使っている教科書やお金を見せた。このクラスでもペンパルを希望する生徒がおり、交流へ興味・関心の高さが分かったと同時に、視覚教材の影響の大きさを実感した。

### (2) PATTILLO A+ School (8月20日と23日の両日)

#### ①学校の様子

1～6学年が在籍しており、2年前にTarboroの町全体を襲った洪水の後に新設された小学校で、校内には数々の賞やポスターが掲示され、美術に力を入れている学校でもある。

#### ②児童の様子

Jannのクラス(6年生)へ行き、自己紹介をした。Jannは生徒に私がMartin Middle Schoolとのprojectで来校したこと、彼女が日本に訪問した際、私に通訳をしてもらったこと、中学校の先生であることの説明をした後、「日本について知りたいことがあれば挙手しなさい」と指示した。一斉に児童が挙手し、打ち合わせなしの予期せぬ展開になったが、好奇心旺盛の子どもたちを見ていると「どこの国の子どもも同じだ」と感じた。

#### ③日本に対する認識度(小学校6年生対象)

下は児童から質問された内容の一部だが、日本に興味はあるものの、認識度はそう高くないような印象を受けた。(Q=質問 A=答え)

Q1. どんな物を食べますか？

A1. 生ものを食べる。たこも食べる。

※たこを食べるといふ答えに悲鳴が上がった。すごい反応にこちらが驚いた。

Q2. どんな靴を履いているのか？

A2. みんなと同じスニーカーやサンダルなど

Q3. 女の子の足を小さくするために紐で縛っていると聞いたけれど、本当ですか？

A3. 中国のことで日本のことではない(纏足のことだった)

Q4. 日本のお金を見せてほしい。どんな色のお金があるのか？

A4. (持っていなかった)

Q5. 普段は、着物やゆかたを着ているのか？

A5. 特別な時に着る。

Q6. 日本語を話してほしい。

A6. 「おはようございます。」「おはよう。」と2つある。前者は誰にでも使えて、後者は友どうしの気軽な挨拶で使うと説明すると、私に対して「おはようございます。」と言ってくれた。

#### ④Class management

GPSPに興味を持つ数名のJannの同僚と話をした。6学年を担当する教員には火曜日の2校時に1時間半のフリータイムがあり、教材の準備や打ち合わせを行っている。児童はその間 dance や P. E や P. C などの選択教科を受講し、Specialist (=専門知識のある先生) による指導を受けている。また今年度から band のクラスではTTが可能になった。TTを組むことで効果的なのは Class management の徹底である。この小学校では1クラスは22人前後だが、聞く姿勢を指導することが多い。聞く姿勢の指導は、学校全体を通しての取り組みで、児童が発言したいがために興奮して好き勝手に発言するのを制し、必ず挙手を求める。私語が増えると授業を中断し、口に手をあてて私語を制している。児童の中でも口に手をあてて、静かにするよう促す姿も見られ、毎日の継続した指導が徹底して行われてきた現れだと感じた。

### (3) Tarboro High School (8月20日と23日の両日)

#### ①学校の様子

9～12学年が在籍し Tarboro に住むすべての生徒が通学する公立高等学校である。保護者は地元の企業で働いている家庭が多く、卒業後地元から出る生徒は少なく、進学率も低い傾向にあるという。要因は様々だが、East Carolina University (以下EUC) からは車で約50分かかるという位置的問題やEUC近郊の公立学校とはカウンティが異なるため、大学の影響力が小さいという教育システムの問題なども要因の一つとして考えられる。

#### ②授業実践その1

(選択教科の日本語クラス 8月20日)

9～12年生の選択日本語クラスは、17人のクラスと32人の2クラスで90分間の授業である。教材はテキストを使用し、絵や写真を見てどう思うかを英語で答え

る形式をとっている。途中からこの2クラスの授業を担当することになった。事前打ち合わせがなく突然だったが、学校紹介ビデオを上映しながら、学校生活の様子を説明した。前半に生徒が教科書で学習したテーマが「日本の学校生活」だったため、同年代の日本の生徒が作ったビデオに興味を持ったようだった。感想をビデオレターの形で録画させてもらい、それを三原の生徒に見せ、聞き取りの教材として活用したいと話をした。快く引き受けてもらおうと同時に、多くの生徒がペンバルを希望した。授業の終わりには、日本に対する質問が出された。生徒に質問された内容の一部を紹介すると次の通りである。

Q1. 日本にはマクドナルドがあるか？

Q2. 普段はどんなものを食べているのか？

Q3. 柔道や空手を授業で習っているか？

Q4. アメリカに来て一番驚いたことは何か？

Q5. どんなスポーツが日本で人気なのか？フットボールはあるのか？

8月23日に二度目の授業をした。前回生徒からお金が見たいとの要望を受けていたので、お金を持参した。色に興味を持つ生徒が多く、手にとって熱心に見ていたのが印象的だった。この日はアンケート調査を行い、同時に第二外国語を学習するにあたって次の2点について記述式のアンケートも行った。

①What do you expect for language learning in your school?

②What skills or abilities do we need when we understand international communication?

## 4. 今後の交流計画と課題

### (1) 学校間の交流

今後の交流をするにあたっては校長自らがコンタクト・パーソンとなり、メールでのやりとりを継続していくことが確認された。Martin Middle School に日本語クラスがあることから、GPSPの交流に必要性を感じているようであったが、具体的な取り組みの提案は校長からはなかった。

### (2) 教員間の交流

GPSPに興味を持っている教員とメール交換を中心に、交流をすすめることになるであろう。今回の訪問でメディアセンターの職員から提案されたのは、三原中学校の英語版HPの立ち上げであった。お互いの学

校のホームページが閲覧できれば、多くの生徒に三原中学校を紹介できるとの助言を受けた。

### (3) 生徒間の交流

コンタクト・パーソン Jann のおかげで3校の公立学校を訪問し、5つのクラスで授業を行うことができた。その結果多くの生徒が興味・関心を示し、ペンパルを希望したため、多数のアドレスを持って帰ることになった。メール交換をはじめとする生徒間の交流を確立させながら、今後は授業レベルでの交流をすすめたいと考えている。

## 5. おわりに

アメリカの教育現場を視察する中で「子どもは、どの子もみんな伸びようとしている」ということ、「よい教師は子ども一人ひとりを見取り、よりよい授業や教育環境を創ろうとしている」という日米共通部分を発見することができた。これは学校訪問、授業実践そしてGPSPに関わったすべての先生方との交流を通して痛感したことである。本プロジェクトの主要な目的である学校間のパートナーシップづくりを強固するためにも、ペンパルやビデオレターを糸口とし、実質的な交流へと今後展開させていきたいと思う。



# 異文化理解に必要な学習指導のあり方の研究

## — 広島大学附属三原中学校とMartin Middle Schoolの比較を通して —

広島大学附属三原中学校 教諭 松尾 砂織

### 1. はじめに

日本の英語教育がコミュニケーション重視にあることは周知の事実である。学習指導要領の目標には「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことをなどの実践的なコミュニケーション能力の基礎を養う」とある。この目標によると、各中学校の授業では、生徒に言語の使用場面を考えた運用ができる力をつけること、その言葉の背景にある異文化を理解しようとする態度を育てることが期待されていることが分かる。

それでは生徒に異文化を理解させるためには、どのような取り組みが必要なのだろうか。また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには、どのような状況を設定すればよいのだろうか。

今回訪問する Martin Middle School には日本語のクラスがある。クラスでの様子を観察するとともに、日本に対するイメージや交流に対する意識をアンケート調査によって把握したいと考えた。また、第2外国語として英語を学習する日本の生徒が作った学校紹介ビデオが、Martin Middle School の生徒にどれだけ理解されるのかを観察し、その生徒の様子を録画して三原中学校の生徒へ見せたいと思っている。最終的にはこれらの活動が今後の両校の交流の糸口になればと考えている。

### 2. 研究の概要

#### (1) 研究の目的

A：学校紹介ビデオによるもの

(三原の生徒に対して)

- ① Martin Middle School の生徒に三原中学校の生活を英語で紹介することを通して、異文化への興味・関心を高める。
- ② 第2外国語(=英語)の学習者が約2年間の英語力で、どれだけの英語表現を習得し、使えるかを知る機会にする。

(Martin Middle Schoolの生徒に対して)

- ① 実生活を伝えることで、異文化を身近に感じさせ、興味・関心を高める。
- ② 今後の交流のあり方を考えるきっかけとする。

B：アンケートによるもの

Martin Middle School と広島大学附属三原中学校における生徒の異文化に対する興味や関心を探る。また、同時に日本の中学生が興味を持っていることを知らせることで、今後の学校間の交流のきっかけとする。

#### (2) 実践の概要

(三原の生徒に対して)

- ① A：6月～7月にかけて週1時間の3年選択英語の授業で、学校生活ビデオを作成した。レポーター、監督、英文作成、撮影とグループで役割を分担させた。ビデオ収録語はMacを使って英文の字幕打ち込みを行った。
- ② B：本校3年生(81名)がアメリカの学生に聞きたい質問をグループごとに作成した。質問形式は5W1Hだったが回答側の便宜を考慮して、yes/no question に変更したアンケート調査に変えた。(資料1)

(Martin Middle Schoolの生徒に対して)

- ① A：Martin Middle Schoolの生徒に三原中学校の学校紹介ビデオを見せ、感想をビデオに録画する。(※後日、ビデオレターを三原の中学生に見せる予定)
- ② B：アンケート調査を行う。三原中学校に対する質問などができれば、記述してもらって持ち帰る。

## (3) 現地調査の日程

日 時	場 所	内 容	関係者・関係機関
8/19 (月) 8:30-10:20	Wahl Coates E. S	全校集会および歓迎会、スピーチ 校舎・施設の案内と説明 副校長との質疑・応答	Wahl Coates E. S 2200E. 5th St. Greenville, NC27858-3003
10:30-12:00	Elmhurst E. S	校長による校舎の・施設の案内 授業参観	Elmhurst E. S 1815West
13:30-15:00	South Central H. S	校舎・および施設の案内と説明	Berkley Road, Greenville, NC27858
8/20 (火) 6:45-7:50 7:55-10:30 10:40-11:40 11:45-15:30	Pattillo A's school Tarboro High School	Jannと打ち合わせ (車中) 学校長、副校長にあいさつ Jannによる学校案内 Jannと打ち合わせ 日本語クラスの授業参観および 授業実践(学校紹介ビデオの上映) Mr. Yamamotoと打ち合わせ	Pattillo A's school 501East Avenue P. O. Box 609 Tarboro, N 27886 Tarboro High School Mr. Yamamoto
8/21 (水) 7:00-7:50 7:50-8:00 8:00-8:10 8:10-8:15 8:15-9:30 9:35-9:40 9:45-10:30 10:35-11:20 11:25-11:40 11:45-12:15 12:15-13:00 13:05-13:50 13:55-14:45 15:00-16:00	Martin Middle School                    (Media Center)	Jannと打ち合わせ (車中) 学校長による全校放送紹介 日程の確認と移動 Homebase/Channel 1 (7th) English Literature (7th) Math (移動のみ) Band (7th 選択授業) 学年会 (7th teachers) (学校紹介ビデオ上映、学校紹介) Lunch Math (8th) Keyboarding (8th 選択授業) Band (8th 選択授業) Math (8th) 職員会議	Martin M. S 400 East Johnson St. Tarboro, NC27886 Ms. Morris Ms. Morris Ms. Knox Ms. Wilson Ms. Morris 他 10名  Mr. Grady Ms. Lee Ms. Wilson Mr. Grady 全職員
8/22 (木) 7:00-7:50 7:55-8:25 8:30-9:40 9:45-10:30 10:35-11:20 11:25-12:10 12:15-13:00	Martin Middle School (Media Center)	Jannとの打ち合わせ (車中) 図書館職員との懇談および交流 についての打ち合わせ 授業実践 (8th 学校紹介ビデオ) ビデオレターの録画 授業実践 (7th 日本語選択授業) (学校紹介ビデオ) 授業実践 (7th 日本語選択授業) (学校紹介ビデオ) Lunch (カウンセラーと交流) 学年会 (8th grade teachers)	Martin M. S (上記と同所) Ms. Powell  Mr. Grady  Mr. Yamamoto  Mr. Yamamoto  Ms. Gregory Mr. Grady 他10名

13:05-13:50		Planning time (Media Center)	
13:55-14:45		校長と今後の交流について懇談 選択授業担当の先生たちと交流 (学校紹介ビデオ上映、学校紹介)	Ms. Lee 他6名
14:50-16:00		スペイン語の先生との交流	Ms. Sugg
16:00-17:00	Go to Greenville	Jannとの打ち合わせ (車中)	Ms. Knighton
17:30-20:00	ECU	Reception	
8/23 (金)	Patttillo A School	Jannとの打ち合わせ (車中)	Patttillo A School
7:00-7:55		授業観察 (7th Band)	Ms. Knighton
8:00-10:30		Jannとの打ち合わせ	Ms. Knighton
10:40-11:25	Tarboro High School	授業実践 (日本語クラス)	Tarboro H. S
11:30-13:00		アンケートの実施	Mr. Yamamoto
13:05-14:35		授業実践 (日本語クラス)	Mr. Yamamoto
14:35-15:00		アンケートの実施	Mr. Yamamoto
15:00-15:10	Martin M. S (図書館)	反省会	Ms. Powell
17:30-	Greenville	挨拶 Homestay	Host family

### 3. 研究の結果と考察

#### (1) 学校紹介ビデオに関して

##### ①生徒の反応から

ビデオを見る生徒の様子は真剣そのものだった。Martin Middle Schoolでは8学年が1クラス、7学年の選択日本語の2クラス、またコンタクト・パーソン Ms. Janet W Knighton (以下Jann) が勤務する Tarboro High School でも急きょ授業をすることになり、9～12学年複合の選択日本語の2クラスがビデオを見た結果、合計5クラスがビデオを鑑賞した。いずれのクラスでも生徒は話をすることなく、集中して15分間見ることができた。動画がいかに有効な交流の手段であるかを実感した。

ビデオレターの作成については、ビデオを見せる前に生徒に次のような話をし、承諾をもらった。「私の生徒が作った学校紹介ビデオを流します。見終わったらあなたたちの感想をビデオに記録させて下さい。英語を学習して2年なので、アドバイスをしてあげてほしい。それが今後の学習の motivation になる。」どの学年の生徒も快く引き受けてくれ、積極的な様子が印象的だった。本校の生徒が話す英語はまだ未熟で、聞き取りにくいという点に、打ち込んだ字幕の表現も不十分なのは承知の上での実施だった。生徒が飽きはしないかと懸念していたが、予想に反して生徒の反応はよく、三原や日本に関する質問や、自分たちの学校紹

介文まで書いてくれた。

##### ②生徒が興味や関心が高かった点

ビデオから分かったことを生徒が質問してきた。自分たちの生活と違う点には、大いに関心を持っている様子が分かり、もっと知りたいという思いの現れだと受け止めた。

- ・全校生徒が制服を着ている (信じられないとの感想があがったほど反応大)
- ・1クラスあたりの生徒数が40人弱であるということ (アメリカでは20人弱)
- ・食事を教室で食べていて、カフェテリアがない (不思議がっていた)
- ・生徒が自分たちで掃除をしている (教職員は「いい習慣だ」と褒めていた)



日本語クラスの教室



話を聞く生徒の様子

- 全員が部活動をしていること（アメリカではスポーツ選手をめざす人が部活をする）
- 下校時間が17:40であるということ（アメリカでは15:00完全下校）
- 通学方法がバスでなく、徒歩や自転車などさまざまであること。（スクールバスのみ）

### ③生徒の手紙から

ビデオ鑑賞を終えた生徒たちは、三原中学校の生徒に向けて、自分たちの学校生活を伝える手紙を書き始めた。こちらから要求した訳ではなかったが、受け手の思いとして何らかの形で表現したいという思いの現れであるように受け取れた。

(Martin Middle School 1)

At Martin Middle our school starts at 7:45 a.m. - 2:45 p.m. We eat lunch in a cafeteria at 12:15. I'm learning how to speak Japanese. We do math, science, social studies, and language arts, band, music, P. E. computer, Spanish and many other electives. (途中抜粋)

My after school activities are basketball. I want to play for my school teams. I like just about everything except social studies.

(ランチはカフェテリアで食べる。7時45分開始で、2時45分に終わる。)

(Martin Middle School 2)

Martin Middle School has a lot of the same things has your school. We have plenty of clubs and after school activities. There are a lot of differences though. Like we get out of school at 2:45. We have lockers and we don't eat in the classroom. We have

Japanese like you have English. Cool uhh. I'm learning some Japanese, but I don't know a lot. Do your teachers have class pets? We do. (以下省略)

(放課後にはたくさんのクラブ活動があるところが似ている。ロッカーがあり、教室では食事はしない。日本で英語があるようにここでは日本語のクラスがある。先生たちはクラスのペットを飼っている。)

(Martin Middle School 3)

(途中省略) We eat lunch in a cafeteria. My after school activities are cheerleading and dancing. Our classrooms are similar to yours. Some things that my friends and me like to do on the weekend are going to see movies, go to parties, go to football games and much more.

(放課後はチアリーディングとダンスをしている。週末は映画を見たり、パーティーへ行ったり、フットボールの試合をみたりする。)

(Tarboro High School 1)

Hey! My name is Jessica Lynn Webber. I would like to get to know you and become friends. I would like to learn more about Japanese. I like soccer and softball. I am a sophomore (10 grade) at T.H.S. Please write me and we can become friend in the future.

(もっと日本語について習いたい。文通して先で友だちになりたい。)

(Tarboro High School 2)

I am 15. I am in the 10th grade at Tarboro High School in Tarboro, North Carolina. This town is very small. Write me back and let us become friends. I would like to learn about Japanese culture and what life is like there. We only had five minutes to write this in class, so I am sorry it is short! Please talk to me and let's be friends. Best wishes in school.

(友だちになって、もっと日本の文化や生活について学びたい。)

(Tarboro High School 3)

My name is Nick Etheridge. I'm 18 years old and a senior at Tarboro High School. My hobbies include drawing, music, and the Japanese language. I have taken Japanese for 3 years, but my Japanese



isn't very good yet. Hopefully someone will help me.

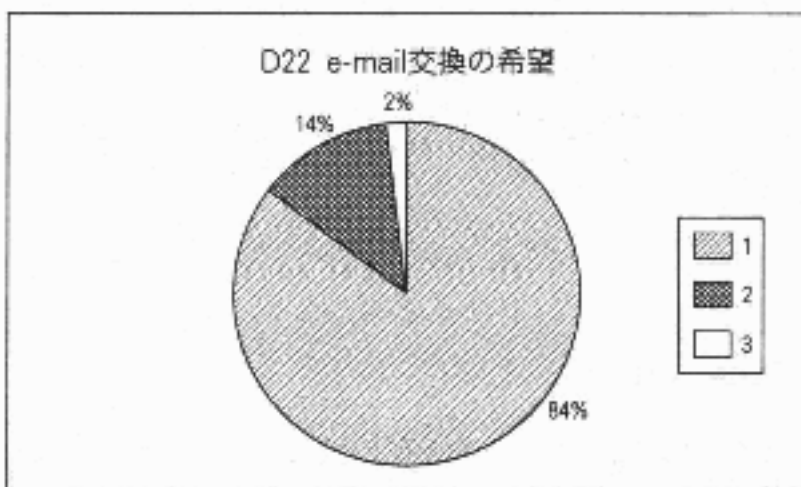
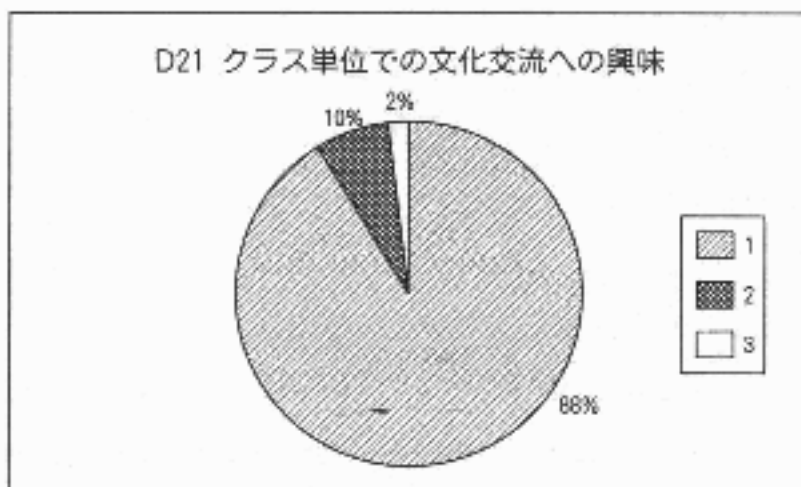
ぼくの名前はニック・エサリッジです。18さいでターボロ高校の4年生です。えを書くこととおんがくを聞くことと日本語を勉強するのが好きです。日本語を勉強することがありますけど、ぼくの日本語がよくないですよ。だれか手伝ってくれたらなあ。

※日本語訳は高校生が考えて書いたもので、訂正や変換もしていません。

### (3) アンケート調査に関して

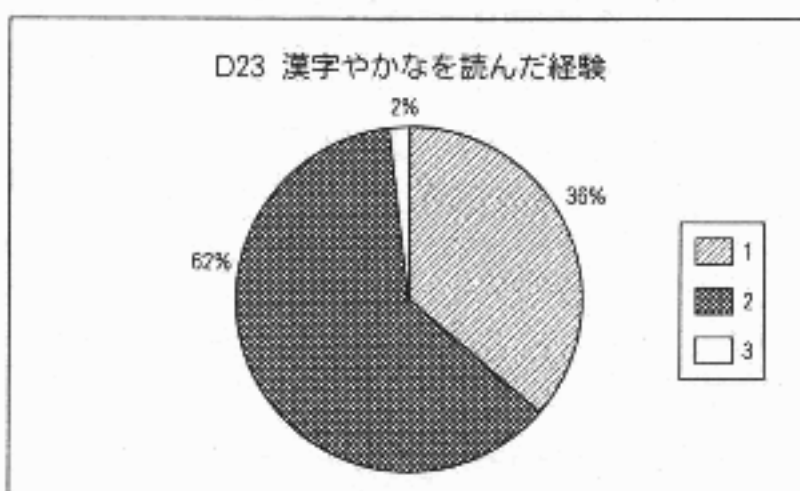
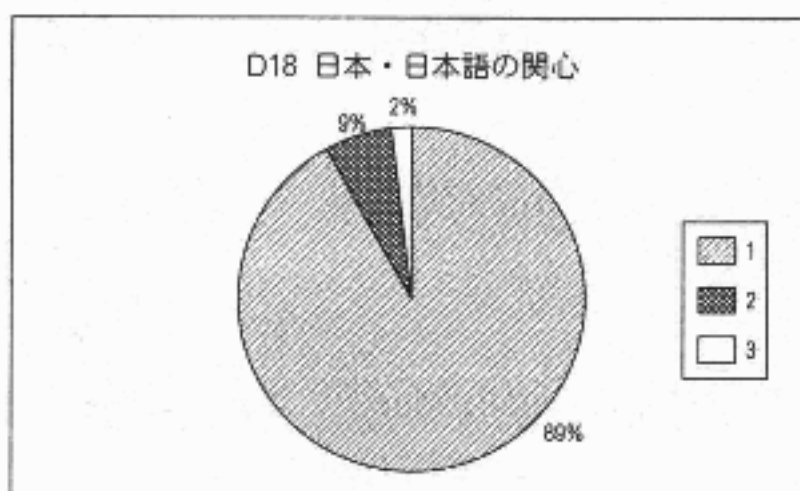
まずはじめに、アンケートの作成者が本校の中学生であったため、日本の学生がアメリカの学生に聞きたい内容が主となっている。回答側からすれば、「どうしてこんな質問をされるのか」「どう答えていいかわからない」などの疑問を感じた生徒も少なくない。(実際に質問された) アンケート作成側も日本で当たり前だと思っていることは、国が違えばそうでないことを学ぶべきだと感じ、これは私自身の反省でもある。Martin Middle School の生徒の実態を調査するために行ったアンケートの中で、特に今後の交流に関する (D) 日本や日本語に対する印象について考察することにする。

円グラフの1～3の内容は、1はyes回答、2はno回答、3は無回答を表している。

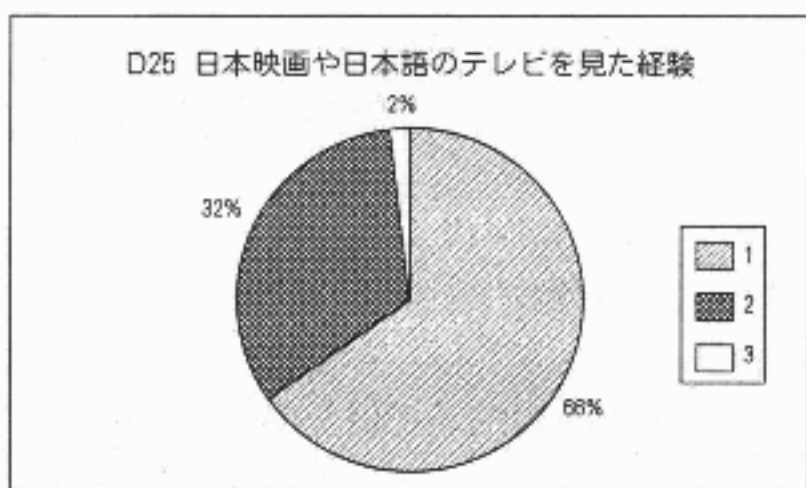
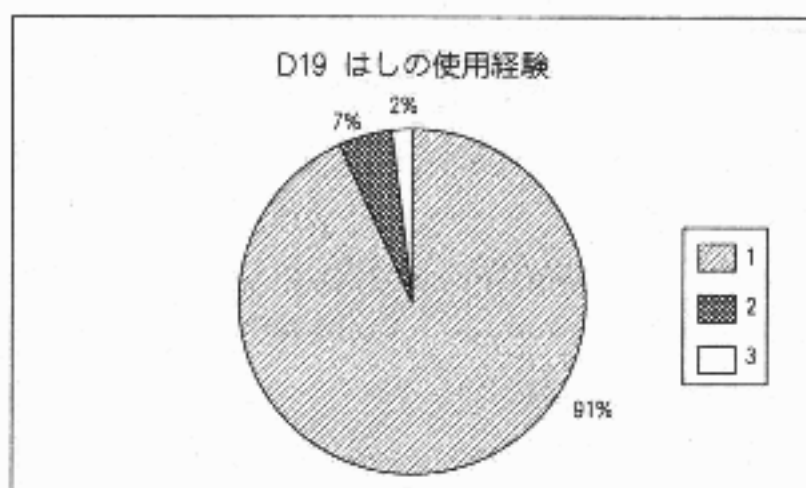


D21とD22の今後の交流に関して言えば、Yesと答える生徒が多く、今後の交流に期待する姿勢が伺える。

実際、多くの生徒がペンパルを希望し、帰る際にアドレスやメールアドレスを持ってかえり、現在ペンパルをアレンジ中である。



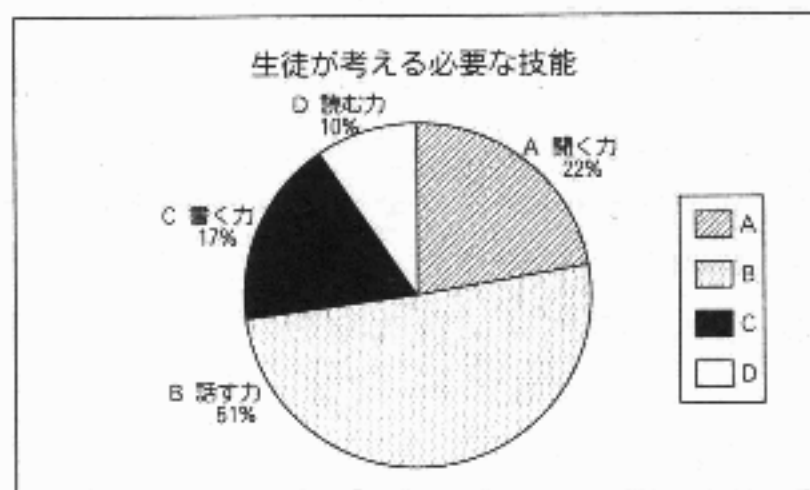
D18とD23から日本や日本語の関心の高さが分かる。しかしながら、漢字やかなを読んだ経験がある生徒は全体の36%と低く、関心は高いが普段の生活の中で直接関わる機会は少ないことが分かる。



少し意外に感じたのがD19の結果であった。はしの使用経験があると答えたのが91%であったことである。しかし、Martin Middle School も Tarboro High School もともに日本人の先生による日本語の選択授業があるので、そういった中で経験したことがあるものだと推測できる。また、D25の結果からテレビで日本映画の放送があり、見る機会があることも分かった。実際私がアメリカに滞在している間、ホテルの部屋でポケモンなどのアニメが放映されているのを偶然に見てとても驚いたものである。

#### 4. 今後の展望

アメリカの生徒と日本の生徒はともに、交流に深い関心を示しており、交流の手段としてはメール交換、クラス単位の交流を希望していることが分かった。また、Martin Middle School と Tarboro High School の生徒はともに日本への関心が高いことが分かった。今後の交流の形は様々考えられるが、本校の生徒の持つ異文化理解への考えを探るために、帰国後、外国語学習に対する意識調査を実施した。(2002. 9. 30 調査対象本校中学3年生81名)



この結果から「話すこと」を通して、外国語を学習したいと考える生徒が多いことが分かった。メール交換は確かに有効的な手段だが、これらの結果を考えると「話ができる」「相手が見える」交流のあり方を探る必要性もあるように思う。異文化を理解するには「話す力」が必要だと回答した51%の生徒は、その力をつけるのに必要な学習方法を次のように考えている。

(生徒の回答を一部掲載)

- ・実際に外国人と会話をする。テーマを決めているような会話をする必要もある。
- ・ペンパルと手紙の交換をしたり、ホームステイをする。

- ・外国の人とコミュニケーション活動をしたり、自分の学校の紹介を英語でする。
- ・リスニングや、読んで単語や文章が書けるようにする。この前やったように電話での会話などを学習する必要がある。
- ・正しい発音を勉強し、相手に伝わるように文法を覚える。
- ・普段の生活の中にどんどん英語を取り入れていかなければならない環境を作り、学習していけたらいい。
- ・外国人が話している英語を聞いたり、会話して自分が体験して体で覚えていくことも必要だ。

#### 5. おわりに

今回の調査が実現したのは、コンタクト・パーソン Jannのおかげである。8月からMartin Middle School を離れ、Tarboro High School と Pattillo A School の2校で勤務している彼女にとって、事前の準備は大変だったに違いない。渡米前のメール交換で、三原の学校紹介ビデオをクラスで上映したいと相談したところ、Martin Middle School の新校長や他の職員に協力を求め、生徒だけでなく、職員にまで学校紹介ビデオを見せる機会を設定してしてくれた。彼女のおかげで公立学校の2校 (Martin Middle School と Tarboro High School) で調査を実施することができた。

今回の研修では多くのことを学んだ。特に自分の思いを伝える必要性を強く感じた。自分の意向を伝え、チャンスを切り開こうとする姿勢が、結果としては多くの交流の糸口を掴むことにつながった。自分が動きを起こさなければ何も変わらないし、始まらないことを痛感した。今後の交流も同じことが言えよう。しか



The way to successful Japanese (教科書)

しながら、その陰には多くの人たちの支援があることを忘れてはならない。教育という同じ仕事に携わる点に置いては、国籍や教育方法は異なっても、行き着く目標は共通である。「教育は人」であり、その人を育てる学校現場にいる私たちは、常に学習を続け、新しい交流のあり方を模索すべきである。

## 6. 資料添付 (資料1 Questionnaire survey 1)

(Dear students)

This is a questionnaire survey from my students (9<sup>th</sup> graders) in Mihara J. H. S. There are 4 kinds of contents in this sheet. There are 25 questions and you can answer only yes or no for each question.

If you can answer or give my students to more information about you and your school, please write your own opinion for some questions or idea. I really understand that these kinds of questions are hard for you, but my students included me willing to begin cultural exchange through this chance.

### A) About your school system, equipment

1. Do you have any air conditioner in every room?
2. Do you like your school?
3. Do you like your teachers?
4. Have you ever had many student teachers?

(In our school about 100 student teachers come to study for a month.)

5. Do you want to wear any school uniform?

### B) About your school events

6. Do you have any field trip?
7. Do you spend a few-days on your school trip?  
(In Japan we stay in a few days on our school trip.)
8. Do you have a cultural school festival?
9. Do you have a sport festival?

### C) About your school life

10. Do you have your homework every day?
11. Are boys and girls on good terms to help each other?

12. Have you ever had a meeting with your teacher and your parents?

(In our school we have to talk with our home-room teacher with our parents in the end of the semester. In this meeting we can get guidance for higher education.)

13. Do you belong to any club activities?
14. Do you have any student's committee?
15. Do you have any swimming classes in P. E?
16. Did you study about Japan in your social studies class?
17. Have you studied about Japan or Japanese in your school?

### D) About your impression of Japan and Japanese

18. Are you interested in Japan or Japanese?
19. Have you ever used or seen chopsticks?
20. Do you want to go Japan in your future?
21. Are you interested in cultural exchange between your class (school) and our Mihara J. H. S?
22. Are you interested in exchanging an e-mail with our school?
23. Have you ever read our letters called Kanji or Kana?
24. Are you interested in Japanese cultures?
25. Have you ever watched Japanese movies or Japanese TV?

### Please fill out a questionnaire.

If you choose yes, you will write 1. If you choose no, you will write 2.

The last (E) questionnaire is a writing question. You will write your own questions or opinion.

### E) About your opinion toward Mihara Junior High School.

Please write your any questions or opinion on the answer sheet.

# グローバル・パートナーシップの展開

## —Elmuhurst Elementary School の訪問を通して—

広島大学附属東雲小学校 教諭 上之園 強

### 1 はじめに

グローバルパートナーシッププロジェクトの趣旨(日米協働によるよりよい教育活動の創造)を踏まえて、今回は、次のようなねらいを持って訪米した。

今後、交流を深めていくことが可能な小学校やキーパーソンを見いだすこと。

このようなねらいにせまっていくためには、訪問する学校の様子を具体的につかむこと、また、人と人との個別の交流を深めることが、まずは大切であると考えている。そして、その過程で、双方の学校の特色を把握し、学校間交流の意義やそのあり方を見いだしていくことがねらいである。

### 2 エルムハースト小学校の特色

#### (1) 学校の概要

##### 所在地

1815 West. Berkly Rd. Greenville, NC27853

(Tel 252-756-0180)

市の中心地でEast Carolina Universtty と隣接

(ECUの特別開発学校として連携)

##### 学級数

18クラス (kから5学年まで、各学年3クラス)

1クラスの児童数は、約25名から30名

##### 教職員構成

校長・副校長・事務 (3名)

担任18人 アシスタントティーチャー12人

特別クラス担当、専科14人 補助4人

カウンセラー1名

施設管理4人 カフェテリア4人 合計62名

#### (2) 組織や規模

##### ①少人数学級

学級数は、各学年3クラスであり日本の平均的な学級数といえるが、その一クラスの児童数が25名から30名と少ないことが特色である。

##### ②明確な役割分担

教員の構成は、担任、教科専科、配慮を要する児童

担当、メディアティーチャー、English as Second Language teacher (英語圏以外の移民の語学教育)、Talent Academic Gifted teacher (思考力を中心に能力の高い児童をさらにのばす教育)、カウンセラーというようにそれぞれの教師が役割を分担し、専門性に基づいた指導体制をひいている。さらには、各学級の担任に加えてアシスタントティーチャーが12名、専科や特別なクラスを担当する教員がアシスタントティーチャーを含めて18名配置してある点が日本と比較しての特徴である。

アシスタントティーチャーはkから3学年までの配置であり、内容は、授業中の児童の個別指導や授業外のテストの採点、ノート指導などである。担任が授業づくりに専念できるような体制となっている。

#### (3) 教育活動

##### ①基本的な姿勢

- ・子どもは必ず成長すると信じ、子供の成長、幸福を願う学校
- ・子どもたちはそれぞれに個性を持っているととらえ、その個性をみとり育てていく学校
- ・民主社会の一員であることは言うまでもなく、世界の中の有益な市民となる教育や文化を伝えていく学校。

子ども一人一人をどのようにとらえていくかという児童観や教育のめざすところは、基本的には同じであるといえる。

##### ②州のThe ABC plus に基づく教育

ノースカロライナ州では、州が作成した「The ABC plus」という基本方針に基づいて、各学校が教育を行っている。ABCとは、Accountability (説明責任)、Basic (基礎学力の充実)、Local Control (地域住民の参画)である。各学校はこの基本方針に基づいて、目標を各学校ごとに設定して進めている。特に、Reading, Writing, Math (読、書、算)については、数値目標を設定し、その達成度を評価し毎年公開している点が日本との大きな違いである。評価は州の統一テストの結果に基づいて行われ、学校が5段階で評価される。結果



についてはインターネット上で公開したり、目標達成の状況について校長が保護者に説明するなどして説明責任を果たしている。

### ③TAG (Talent Academic Gifted) クラスの設置

学校には様々な水準の子どもたちが入学してくる。そのなかの能力の高い子どもをさらに伸ばしていく目的で設定されたクラスが、TAGクラスである。3学年以上でテストを行い保護者の同意を得て、クラスの児童を決定する。内容は、思考力や発想力の育成を中心とした取り組みである。TAGクラス担当は校内で1名配置され、郡内のTAG担当と協力しあって思考力育成の教材開発や授業の工夫を行っている。郡内で共通の教材が豊富に用意されている点の特徴である。またTAG担当は、教育課程の編成や授業内容の開発も担当し、他の授業者へアイデアの提供も行っている。TAG担当は、日本の教務主任と研究主任を兼ねた大きな役割を担っているといえる。

### ④柔軟な時程

#### Class Schedule (First Grade)

08:00-08:30	Character Education, CalendarMath Morning Message, Story
08:30-09:25	Math
09:25-10:05	Encore Class : Art, PE, Music , Media Technolgy
10:05-10:20	Snack
10:20-10:40	Making words /Phonics
10:40-11:30	Reading /work stations
11:30-11:40	Sharing
11:40-12:00	Outside Recess
12:00-12:15	Prepare for Lunch
12:15-12:50	Lunch
12:50-13:00	Quiet reading / Story
13:00-13:45	Writer's Workshop
13:45-14:20	Science / Social Studies / Health / Technology
14:20-14:30	Daily Wrap Up

学校全体の教育課程が設定され、いわゆる専科教諭の担当時間は全学年に設定されているが、一日の時程や内容は、学級担任の裁量に任されている部分が多い。上記の時程は、第1学年のものであるが、クラススケジュールとあるように、各学級が学校の基本的な時程に基づいて柔軟に学習時間や休み時間を設定している。また、日々の運用においては、児童の学習の状況に応

じて2時間続きの授業を行ったり、休憩を位置づけてりしている。日本のように全校児童が一斉に休憩しているという姿はみられない。

### ⑤保護者との連携

PTA活動が活発に行われ、そのPTAと連携した教育が行われている。その活動の特色は、次の3点である。

一つ目は、保護者がボランティアとして授業の支援を積極的に行っている点である。その内容は、授業で教えるといった「授業そのものへの人的支援」と、授業の教材づくりや図書館の本の整理などといった「学習環境を整える人的支援」の二つである。これらの二つのタイプの人的支援が、年間で約4000時間、また、一週間で、のべ50~60人と日常的に行われているという点が特色であるといえる。

二つ目は、PTAが学校の物的教育環境を整えるために、「資金の支援」を行っている点である。日本でもPTAによる寄付等はみられるが、PTAが組織的に、さまざまな工夫や意図をもって行っている点が特色である。

三つ目は、家庭の教育環境をよりよくする活動を、「保護者が保護者」に行っている点である。その内容は、学習を深めるために「子どもへのはたらきかけ方を学びあう場」の設定、移民の親に英語の読み方を教えたりする「親のリテラシー教育」、家庭教育の土台である「親子の関わりを深めていく活動」などである。

### ⑥地域・大学との連携

エルムハースト小学校は、市中心部のECUと隣接した立地条件を生かして、大学との連携をはかった教育活動を行っている。内容は、大学教官による授業や教材開発への助言と専門性を生かしたゲストティーチャーである。手続きは担当者と大学教官との個別の連絡で行われている点が特色である。また、地域のボランティア団体等と連携した活動も、日常的に行われているのが特色である。内容は、本の読み聞かせや文字の個別指導などであるが、多様な人の生き方に触れる点でも効果的であるという。

## 3 おわりに

今回の訪米は、今後、交流を深めていくことが可能な学校とそのキーパーソンを見いだすことがねらいであった。

訪問したエルムハースト小学校は、公立の学校であ

るが、大学と隣接しECUの特別開発学校として大学と連携した研究的実践を行っている学校である。東雲附小と同様の役割を担っている学校といえる。互いに同様の役割を担っている学校として、今後、交流しあう意義を見いだすことができる。

実際の交流においては、様々な特色を持つ学校であるだけに、教師も子ども共に多くのことを学び合うことができる。また、学校規模や児童数が共に類似しているため、互いの情報を活用しやすいといった利点がある。

エルムハースト小学校の特色は、アメリカの社会的背景に起因しているものもあり、すべてをそのまま活用することはできないが、実践の考え方、実践の具体的な工夫点など、学ぶべき点が多いといえる。

次に、交流のキイパーソンであるが、ベストな人材と出会うことができた。訪問したエルムハースト小学

校の Suzanne Hachmeister 氏は、学校間交流に高い関心を持ち、実現にむけて極めて積極的であった。Suzanne はすでに日本を訪れており、交流の具体的な像を描ける存在である。また、学校においては、前述したTAG担当教師であり、日本の教務主任と研究主任を兼ねた校内のリーダー的存在である。Suzanne の経験と校内での役割は交流を進める上で極めて重要である。

今後の交流にあたっては、Suzanne をキイパーソンとして、パソコンを活用したメール交換や作品紹介など、具体的で可能なところから進めていきたいと考えている。また、一つの試みであるが、学校と学校という漠然とした交流ではなく、個人と個人が具体的な姿を交換できるような交流のあり方を教師同士、子ども同士で模索したいと考えている。

# 学校と地域社会とのかかわり

## —Elmuhurst Elementary School を事例として—

広島大学附属東雲小学校 教諭 上之國 強

### 1 はじめに

子どものより大きな学びとより大きな成長のためには、学校が学校だけで教育を行うのではなく、保護者や地域社会の有益な教育的資源を効果的に活用しあっていくことが大切である。それは、学校や教師が主体性をなくし、他者に頼るというものではなく、学校は学校としての、また地域社会は地域社会としての主体性を持ち、子どもの成長に向けて相互にその役割を担い合うという考え方である。大切なことは、目の前の子どもが成長しているという事実であり、そのために、何ができるかを双方が考え合うことである。

今回は、学校と地域社会とのかかわりについて、訪米したエルムハースト小学校を事例として、その基本的な考え方や具体的な工夫点を見いだしたいと考えている。

### 2 研究の概要

#### (1) 研究の目的

- ・学校と地域社会とのかかわりについて、日米の比較を行い、その特色を明らかにする。
- ・学校が地域社会とかわりながら、より大きな学びを育てていく基本的な考え方や具体的な工夫点を見いだしていく。

#### (2) 研究の方法

学校と地域社会とのかかわりをみていくために、訪問するエルムハースト小学校に焦点をあて、以下の観察・調査を行う。

- ・児童の基本的な過ごし方と地域社会とのかかわりについてのアンケート調査
- ・保護者や地域社会と連携した学校の教育活動についての観察と聞き取り調査

上記の2点について、東雲小学校と比較し、その特色を明らかにする。その中から、基本的な考え方や工夫点を見いだしていく。

#### (3) 現地調査の日程

日 時	場 所	内 容	関係者・機関
8/19 (月) 8:30 10:30 13:30 16:00	Wahl Coates ES Elmuhurst ES South CentralHS Teacher's Supply	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歓迎会 授業・施設の見学</li> <li>・授業・施設, 学校概要の聞き取り</li> <li>・授業・施設の見学</li> <li>・教材の見学</li> </ul>	
8/20 (火) 8:30 15:30 18:00	Elmuhurst Elementary School  Wiil	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流と調査計画の打ち合わせ</li> <li>・授業観察 4年 Language Arts All levels 2年 Centers/Stations 1年 Academic Gift 2年 Writing Lesson</li> <li>・教科書の説明会</li> <li>・Wahl Coates ESの先生との交歓会</li> </ul>	Suzanne Hachmeister
8/21 (水) 8:30 15:30	Elmuhurst Elementary School	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA活動について</li> <li>・Academic Gift クラスの観察 CreativeThinking</li> <li>・学校生活についてのアンケート</li> </ul>	PTA President: Doug Zaryy Suzanne Hachmeister

8/22 (木) 08:30	Elmuhurst Elementary School	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長の学校運営について</li> <li>授業観察 5年 Math 3年 Math</li> <li>学校生活についてのアンケート (5年生)</li> <li>カウンセリングのインタビュー</li> </ul>	Principal: Miriam Bailey Suzanne Hachmeister
8/23 (金) 08:30	Elmuhurst Elementary School	授業観察とインタビュー <ul style="list-style-type: none"> <li>2年 Mat</li> <li>校長の話、学校運営</li> <li>3年国際理解(日本の文化)</li> <li>5年 P E</li> <li>After School</li> <li>日本の子どもたちと(在校生5名)</li> </ul>	Suzanne Hachmeister

### 3 研究の結果と考察

#### (1) 児童の基本的な過ごし方と地域社会とのかかわり

児童の基本的な生活リズムと過ごし方を調査し、日常、学校外で児童が地域社会とどのようにかかわっているかをみていく。アンケートは附属東雲小学校とエルムハースト小学校の第5学年児童20名を対象に行ったものである。対象とする児童数が少ないため、あくまでも、一つの傾向として捉えていきたい。なお、資料として提示した表の数字は、人数である。

##### ①子どもの基本的な生活リズム

児童の基本的な生活リズムをみていくために、起床、通学方法、就寝に焦点化して調査した。

資料1：起床時刻

時刻	5:30	6	6:30	7
USA		3	12	5
日本	1	6	11	2

資料2：学校への交通手段

時刻	徒歩	バス	マイカー	自動車
USA	0	1 スクールバス	19	
日本	4	11 (公共)	11	5

資料3：就寝時刻

時刻	8:30	9	9:30	10	10:30	11	11:30	12	(PM)
USA	4	4	5	6	1				
日本				1	5	8	4	2	

起床は日米ともに早い、その理由は異なっている。アメリカは、日本より始業が早い(30分程)ためである。朝の8時には校長の話が始まるという学校のリズムである。それに対して、東雲小は始業が30分遅いが、通学区域が広く通学に時間がかかるためである。アメリカの児童が自動車で5分から、15分ぐらいの通学時間であるのに対して、東雲小はほとんどの児童が30分から60分程の通学時間である。

通学方法は、日米ともにほとんどの児童が乗り物を利用しての通学である。アメリカは全員がマイカーによる送り迎えかスクールバスであり、東雲小は公共のバスかJRである。

就寝については、東雲小の児童がアメリカよりも2時間ほど遅い傾向にある。その理由は、ほとんどの児童が通塾しているため帰宅が遅いこと、さらには帰宅後に塾や学校の勉強をしたりするからである(資料4参照)。東雲の児童は朝早く夜遅い生活リズムであり、アメリカは早寝早起きの生活リズムであるといえる。

以上の点から、地域社会とのかかわりをみると日米では違いがみられる。ともに通学途中で地域とのかかわることは難しい状況にあるが、下校後の時間的ゆとりが異なっている。アメリカの児童は下校時刻が2時30



分と日本より早く、しかも通学時間も短いため、帰宅後に地域とかかわる時間的なゆとりあると考えられる。それに対して東雲の子どもは通塾などにより、そのゆとりは少ないといえる。

②下校後や土日の過ごし方

資料4：下校後の過ごし方  
(一週間の中で主なこと1つ記述)

	USA	日本
家庭で学習 塾の勉強	0 0	4 13 国算社理
家の手伝い 外で遊ぶ	0 10 野球 サッカー 自転車	0 1 犬の散歩
テレビゲーム	2	0
読書	3	0
習い事	5 ヴァイオリン 水泳 野球 フットボール	2

資料5：土日の主な過ごし方 (主なもの2つ記述)

	USA	日本
勉強		20
通塾		2
読書	2	3
テレビゲーム	5	5
外で遊ぶ	17 友だち 近所の人	3
習い事	6 水泳、ピアノ ヴァイオリン チアリーディング	
お出かけ 昼寝	3	5 買物 2

児童の下校後や土日の過ごし方をみると次のような特色がみられる。(資料4・5参照)

下校後や土日の過ごし方をみると、東雲の児童は、ほぼ全員の児童が学習塾に通塾し、その勉強や学校の勉強を行っている。その時間は平日では2時間から3時間ぐらいであり、外での遊びはわずかであるといえる。それに対してアメリカの児童は外で遊ぶ児童が一番多く、次にスポーツや音楽などの習い事である。アメリカにはいわゆる学習塾というものはなく、多くの児童は近隣や近くのスポーツセンターなどで遊んだり、活動したりしている。その時間は平日では1.5～2時間ぐらいである。

この点から地域社会とのかかわりをみると、東雲の児童は地域とかかわる時間的なゆとりがなく、学習塾以外にはほとんどかかわりをもっていない状況である。

それに対してアメリカの児童は、平日でも土日でも児童自身の自由な時間が確保されており、子ども同士がかかわったり、スポーツセンターなどで地域とかかわることが可能な環境にあるといえる。

③夏休みの過ごし方

資料6：夏休みの遊びの度合い

	よく遊んだ	時々	あまり
USA	9	11	
日本	4	10	6

資料7：夏休みの主な遊び (二つ以内で)

	USA	日本
テレビゲーム	1	8
読書		1
プール・海水浴		2
外で遊ぶ	11 友だち 近所で	5 缶けり 野球 サイクリング
スポーツ クラブ	7 水泳、 サッカー 野球	
サマーキャンプ 旅行	5 家族と 4	3

資料8：夏休みに家以外で勉強した経験

	した	していない
USA	6	12
日本	20	0

資料9：家以外で勉強した内容・場所  
(複数回答可)

	USA (4人)	日本 (20人)
自然・冒険体験	4 資源保護区で	
リーディング プログラム	2 州都の 図書館で	
国語・算数 社会・理科		20 学習塾
学校の勉強		2 友だち の家

夏休みの過ごし方について、遊びと勉強に絞って比較してみた。

遊びについては、日米ともに遊んでいる子どもが多いが、日本では、時々という児童が多い傾向にある。その理由は、ほぼ全員が学習塾に通塾し(資料9参照)、そのための時間が設定されているためである。遊びの内容は、アメリカでは、外遊び、かかわり、地域のス

スポーツクラブ、生活経験を中心としたサマースクールであるのに対して、東雲小では、家の中の遊びが一番多い。アメリカの児童は友達や地域とかかわる遊びが多いが、東雲小の児童は、友達や地域とかかわりにくい過ごし方をしているといえる。

家以外で勉強した経験については、アメリカと東雲小学校では対象的である。アメリカは経験者が少ないのに対して、日本は、全員の児童が経験している。その内容は、日本では学習塾の勉強であるのに対して、アメリカは、資源保護区などでの自然体験や生活体験を主とした経験である。勉強(Study)という言葉でエルムハースト小の児童が、生活経験や自然体験を含んで捉えているところが特色である。

アメリカでは、サマーキャンプや生活体験を中心としたサマースクール、また図書館などの解放が多くなされ、そのような教育的な機会に児童がかかわろうとすれば可能となる環境である。東雲小はほぼ全員が学習塾もしくは夏季講座に参加し、地域社会とのかかわりがあるとは言えるが、その内容は受験を目的とした学習塾である。日米の夏休みの過ごし方や地域とのかかわり方は対照的であるといえる。

#### ④地域の教育的な施設とのかかわり

土日によく利用する教育的な施設については、利用したことのある児童がその施設を記述する方法で行った。結果は、東雲小では、ほとんどの児童が利用することがないのに対して、アメリカでは半数ほどの児童が利用していた。その主な施設は、スポーツ関係施設や教会である。

夏休みの利用状況については資料11の教育的な施設を提示し、その頻度を記入するという方法で行った。結果は、美術館や図書館の利用は日米共に少ないが、

資料10：土日によく利用する教育的な施設  
(主なもの二つ)

国	施設	人数
USA (16人)	スポーツセンター (野球・サッカー)	8
	屋内プール	7
	図書館	1
	教会	8
日本 (3人)	屋内プール	2
	図書館	1

\* 資料11の夏休み中の施設の利用状況は、よく利用する、時々利用する、人数の合計である

公民館的な施設(教会を含む)や地域のスポーツに関する施設については、違いがみられた。東雲小では、プール以外の施設の利用が少ないのに対して、アメリカでは、半数以上の児童が利用するという傾向である。

これらの点から、夏休みにおける地域とのかかわりをみると、アメリカではスポーツ施設や教会を含むコミュニティ施設、または自然体験的なプログラムを通して地域とかかわるという傾向がみられる。それに対して、東雲小では、ほとんどの児童が学習塾に通うという傾向がみられる。このような特色は、日米の夏休みの捉え方や子どもの育て方の違いに起因していると考えられる。アメリカでは、夏休みを子どもの生活経験をひろげていく場としてとらえているのに対して、日本では学習(狭義)を補充・充実する場としてとらえるという考え方である。このことは両国の進学制度とも関連していると思われる。

#### (2) 保護者や地域社会と連携した学校の教育活動

保護者や地域社会と連携した教育活動について観察・調査した結果、エルムハースト小学校における最も大きな特色は、PTA活動との連携であった。エルムハースト小学校PTAは学校と連携した多様な支援活動を活発に行っている。以下、その特色を次の3点に絞って述べてみたい。

##### ①学校への人的支援

PTA活動の特色の一つ目は、保護者がボランティアとして授業の支援を積極的に行っている点である。

その一つは、例えばコンピュータを専門とする父親が自分の専門性を生かして、授業で教えるといった「授業そのものへの人的支援」である。

このような授業への積極的なボランティア活動は、教師と保護者の専門性を生かしあうことが、より大き

資料11：夏休み中の教育的な施設の利用状況

教育的施設	USA	日本
美術館	0	0
科学博物館	1	1
歴史博物館	2	2
図書館	5	5
公民館	8	2
史跡(建物、古墳等)	6	0
スポーツセンター	14	2
プール	14	9
サマーキャンプ	11	1
教会	3	0
学習塾	0	21

な教育効果をもたらすという考え方を双方が持ち合わせているからである。教師は、子どもを組織する力を保護者はその仕事上の専門性を互いにリンクしあってより深い学習にしていこうとしている。

このような授業そのものへの人的支援は、授業内容そのものを深化するという点でも、効果的であるが、さらには、次のような点でも効果的であるという。

- ・学校で学ぶ内容が実社会とどのように結びつき、どのように役立っていくのかを学ぶことができる。言い換えれば「学校で学ぶことの意味」を学ぶ場——ことができる。
- ・学校での学びと実社会とのつながりに気づくことで、児童が学習に対して、息の長い興味を持つことができる。

二つ目は、例えば、授業の教材づくりや図書館の本の整理などといった「学習環境を整える人的支援」である。

このような人的支援は、日本にはあまりみられないタイプである。保護者は自分の来ることのできる時間に教室へやってきて、ごく自然に、教師と連携し教材を整備している。

事例として紹介したこの学校では、「授業そのものへの人的支援」と「学習環境を整える人的支援」が年間で4000時間おこなわれている。また、一週間でのべ人数は、50～60人である。このように、ボランティア活動がごく日常的に数多く行われているという点が大きな特色である。

#### ②学校への物的支援

特色の二つ目は、PTAが学校の物的教育環境を整えるために、「資金の支援」を行っていることである。例えば、テレビや実験道具など、教育に必要な教材や道具の資金的な支援である。日本でもPTAによる寄付等は見られるが、PTAが組織的に、さまざまな工夫や意図をもって行っている点が特色である。

特に、資金の収益方法においては、次のような工夫がみられる。例えば、大きな収益を得るために、隣接したフットボール競技場の駐車場として、学校の敷地を全面的に使用するという工夫である。ここでも、その駐車場の誘導係は、保護者ボランティアが行っている。また、単に収益だけでなく、子どもと親の交流を図るという意図を持ちながら、収益も行うというイベントなどの設定も行っている。

ただし、物的な支援は、あくまでもPTA活動の一側面であり、資金的なことを含めたよりよい教育環境づくりについては、州や郡政府へ様々な改善要求を行っているという。

#### ③家庭教育の啓発活動

特色の三つ目は、家庭の教育環境をよりよくする活動を、「保護者が保護者」に行っている点である。

その一つは、「子どもへのはたらきかけ方を学びあう場」の設定である。例えば「年間の授業内容」を親が互いに学びあい、学習内容を深めるために、家庭で何ができるかを話し合うというものである。

二つ目は、「親のリテラシー教育」である。移民してきたヒスパニックの親に英語の本の読み方を教えたり、図書館の使い方を教えたりして、親が子供に教育できるようにする活動である。

三つ目は、家庭教育の土台である「親子の関わりを深めていく活動」である。例えば、学校のカフェテリアを活用した「父さんと朝のドーナツを食べよう」というイベントでは、ドーナツを親子で互いに食べることを通して、ふれあいの少なくなりがちな父親とのかかわりを深めようとしている。また、遊園地の遊具を借りてきて、夜に共に遊んだり、夕食を食べたりする活動なども同様の意図である。

上述してきたPTA活動の特色は、アメリカの社会的背景に起因しているものもあり、すべてをそのまま参考にすることはできないが、取り組みの考え方、活動の観点や工夫点など多くのことを学ぶことはできると考えられる。

## 4 おわりに

エルムハースト小学校を事例として学校と地域社会とのかかわりについて、その特色を考察してきた。その中で、児童の基本的な過ごし方と地域とのかかわりについては、日米（東雲小との比較）で違いがあり、次のような特色が明らかとなった。

○日常生活において、アメリカは下校時刻が日本より早く、帰宅後に地域とかがわる時間的なゆとりがあること。また、土日でも児童自身の自由な時間が確保されていること。

○長期休業中に、アメリカではスポーツ施設や教会を含むコミュニティ施設、または自然体験的なプログラムを通して地域や人とかがわる傾向がある

こと。このような傾向は、日米の夏休みの捉え方や子どもの育て方の違いに起因していると考えられること。

また、学校が地域社会とかかわりながら、より大きな学びを設定していく上で、エルムハースト小学校から学ぶ点は、次の通りである。

- 保護者の力を重視し、その力を十分に生かした教育活動をごく日常的に数多く設定していること。その形態は、学校への人的支援（授業そのものへの支援、学習環境を整える支援）学校への物的支援、家庭教育の啓発活動（保護者が保護者に啓発する様々な活動）と様々であり、いろいろな視点からPTA活動と連携していること。
- 保護者と学校との連携において、互いの専門性を生かしあうことが、より大きな教育効果をもたらすという考え方を双方が基本的に持ち合わせていること。その専門性とは、教師は、子どもを組織

する力であり、保護者はその仕事上の専門性と生き方である。

- 子どもが学習を通して、地域社会や保護者とかかわることの意義として、次の点を考えているということ。
  - ・専門家とかかわることにより、今学んでいる内容をより深めることができる。そのことが学習への興味や関心を引き出すことにつながる。
  - ・実社会にふれることで、今学んでいることと実社会のつながりを見いだすことができる。そのことが今学んでいることの意味を学ぶことになり、生涯学ぶことの意欲を喚起する。
  - ・社会人や保護者とふれあうことにより、子どもが学習内容だけでなく、人の多様な生き方に触れることができる。そのことが、自分の生き方を見いだしていくうえでの重要な経験となる。



## 学校訪問を通しての交流

### —Wahl-Coates Elementary School の訪問を通して—

広島大学附属三原小学校 教諭 石井 信 孝

#### 1. はじめに

今回私が訪問した Wahl-Coates Elementary School (以後Wahl-Coates E. Sと略す)とは、1999年から交流が始まり、これまでWahl-Coates E. Sの先生方の訪問を3回受け、本校から2回訪問している。2001年6月には、姉妹校提携の協定を結んでいる。

本校へ訪問された際は、授業参観や、日本の伝統的な遊び、茶道、習字などを子どもたちと共に体験されたり、教育活動について職員へインタビューをされたりしている。訪問時以外の交流としては、図画工作の作品の交流やビデオレターでの学級間交流を行ってきている。しかし、まだ子どもたちや職員にとって、この交流が身近なものとはなりえておらず、今回の訪問を通して、交流活動への意欲付けの具体的な方法をさぐっていきたいと考える。

#### 2. 訪問の際の交流

今回の訪問に際して、子どもたちの交流や教師間の交流のきっかけを作ったり、継続を図ったりしたいと考え、2種類のビデオを持参した。一つは学級紹介、もう一つはアメリカの音楽について調べた子どもたちからのメッセージである。現地に赴き、Wahl-Coates E. S. の先生方の協力を得て、予想以上に交流活動を行うことができた。

##### ①ビデオを通しての学級間交流 (第4学年同士)

前回Wahl-Coates E. S. を訪問した先生と、現地で

交流があった先生が担当している学年が同じであり、子ども同士の交流が進めやすいのではないかとことから、今回の訪問に際して、子どもたちの自己紹介や学校の生活についての紹介のビデオ撮りを行った。

Wahl-Coates E. S. の子どもたちは、本校の子どもたちの自己紹介を聞き、自分と同じ趣味をもっているとうなずいたり、微笑んだりしていた。始業前に校庭で遊んでいる姿やプールで水泳の授業を行っている様子が映ると興味深そうに見ていた。

私が滞在中に、このクラスの子どもの自己紹介のビデオを撮ってくださり、日本へ持ち帰ることができた。

##### ②授業を通しての交流

###### ア. 音楽の授業の活動から

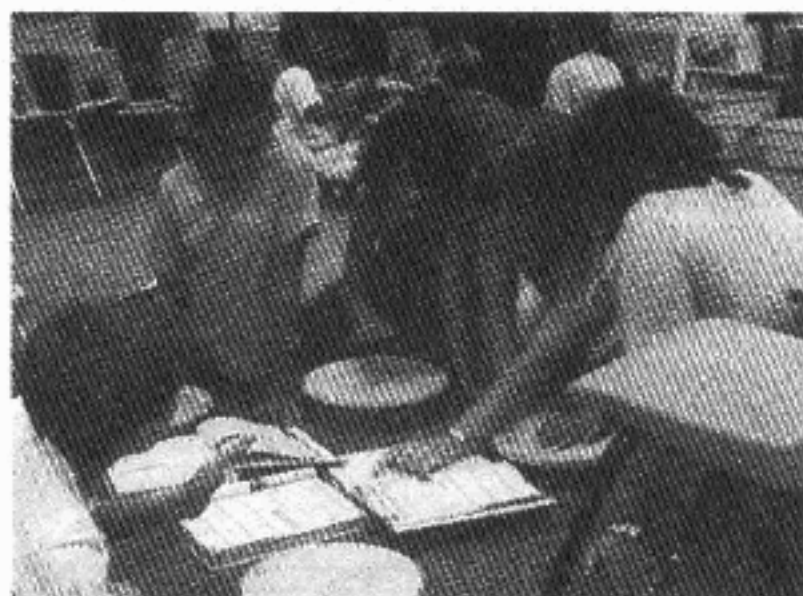
(本校6学年、Wahl-Coates E. S. 5学年)

6年生の音楽の授業で、世界の音楽について学習する機会があった。その中に、アメリカの音楽を調べた子どもたちがおり、今回の訪問にあたって、調べた内容をビデオにとり Wahl-Coates E. Sの子どもたちに紹介することにした。現地では、5年生の子どもたちに音楽の時間に、そのビデオを見てもらった。帰国後、アメリカでの音楽の授業の様子やビデオの紹介の様子を子どもたちに見せた。子どもたちは、次のような感想を抱いていた。

- ・アメリカでは、歌うだけでなく体でリズムを感じている。



日本の子どもたちの自己紹介のビデオ

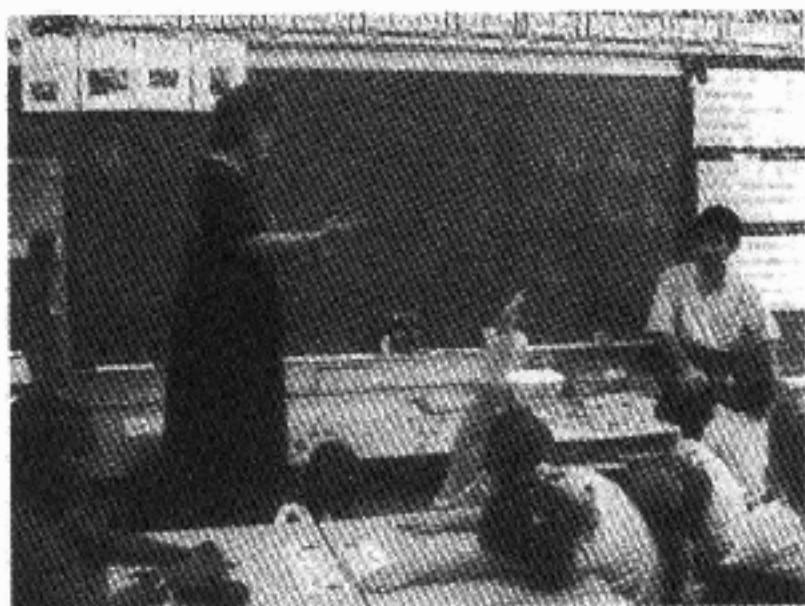


Wahl-Coates E. Sの音楽の授業風景

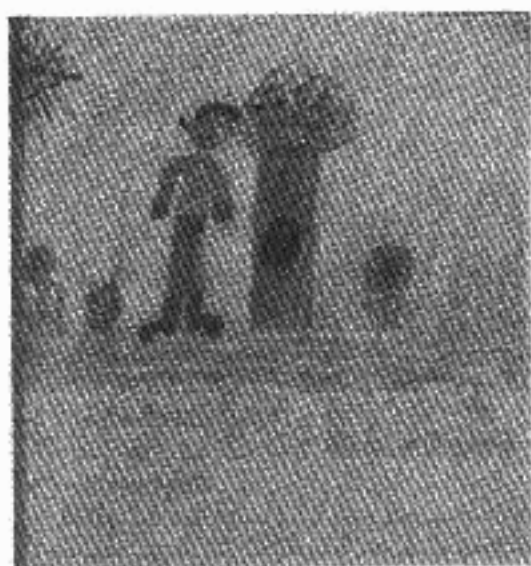
- ・アメリカの教科書が分厚いのに驚いた。
- ・アメリカの学校は、教室がすてきだ。
- ・もっとすてきな歌を紹介したい。
- ・アメリカの人にもっと日本のことを知ってもらいたい。

イ. Wahl-Coates E. S. の1年生のLanguageの授業で

私が訪問した1年生の Miller 先生のクラスでは、Language の学習で、毎日一人ずつが、家族のことや好きな食べ物、趣味などについて話をしている。この日は、ゲストとして私が話をする事になった。子どもたちからの質問にも答えた。その後、Miller先生が、話の内容を尋ね、スペルや発音の指導をしながら子どもたちとともに文章を作り、板書した。この活動の後、子どもたちは、私のことに関して、絵や文であらわしてくれた。

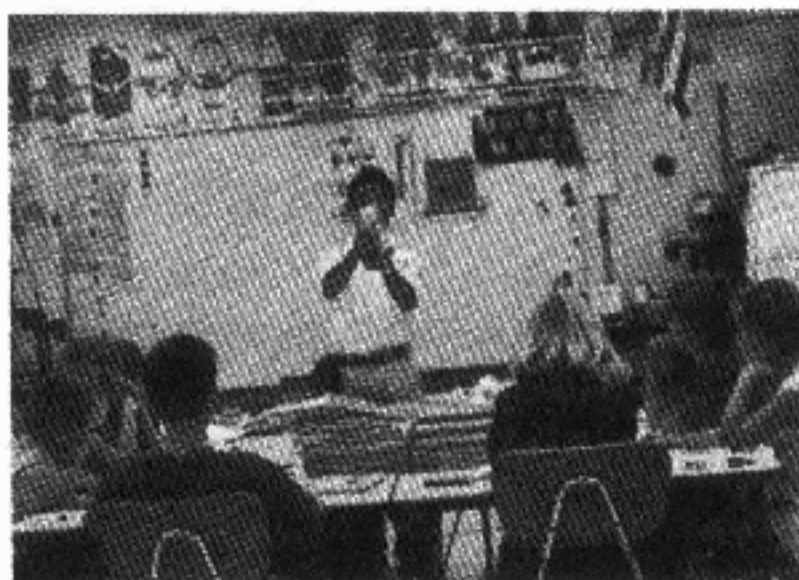


Languageの授業風景



1年生の作品

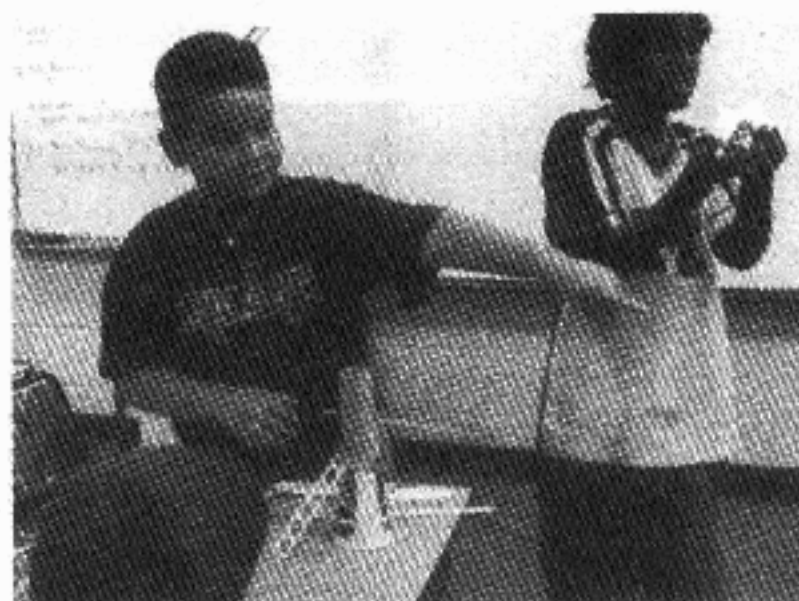
ウ. Wahl-Coates E. S. の4年生のARTの授業で  
学校訪問の前に Wahl-Coates E. S. の先生方と談話をした。その際、生活科の学習に身近な素材でおも



手作りのおもちゃの紹介



材料を手におもちゃの構想



家庭学習で作ったおもちゃの紹介



ちゃを作る活動があり、訪米前は、同じ素材で製作する物について日米の比較をしてみたいと考えていたが、身近な物の違いや使える道具などに違いがあるのではと考え、取りやめたことを話した。すると、おもしろい活動だから行ってみたいかどうかということになり、アメリカのファーストフードの店の紙コップやストローなどを使って、おもちゃを作った。そして、4年生のARTの時間に授業をさせていただいた。この時間は、私が製作したおもちゃを紹介し、子どもたちは素材を手にし、アイデアを考えた。そして、続きは家庭学習で行って来てくれることになった。

今回、製作物の比較することは行えなかったが、おもちゃの紹介やおもちゃ作りを通して、子どもたちと身近に接することができた。私が訪問させていただいた、Kのクラス、1年生のクラス、障害児学級それぞれのクラスの子どもたちにも、おもちゃを紹介させていただいた。

### 3. 今後の展望

帰国後、私が担任をしている1年生の子どもたちに Wahl-Coates E. S. の Miller 先生のクラスの1年生の授業や休憩、昼食の時間などの様子をビデオで紹介した。すると、子どもたちから次のような感想が出された。

- なぜ、休憩時間にお菓子を食することができるのか。
- 音楽の授業の中で、自分が知っている曲が流れて

きた。何という曲名か気になる。

- なぜ、靴をはいて教室に入るのか。
- 教室移動の時や外で遊んで教室に入る時、どうして並ぶのか。
- アメリカの学校に飼育小屋がないのは、なぜ。
- 教室が、かわいくてきれい。
- 数字も英語と思っていたけど、数字は日本と同じだったので、びっくりした。
- 筆箱の中に入っているものは、日本と同じかな。
- アメリカには、どんな遊びがあるのかな。
- 体育の時、どうして体操服に着替えないのかな。
- アメリカには、どんな虫がいるのかな。

15分ほどに編集したビデオであったが、1年生の子どもたちは、自分の学校生活と比較して感想を抱いていることがうかがえる。ビデオを映している時の子どもたちの様子や感想から、映像のもつ影響力の大きさを改めて感じた。

今回の訪問で、Wahl-Coates E. S. の様子を撮影しているので、学校放送を活用して、全校児童・教職員に紹介することによって、興味・関心を引き出したい。そのことが、何かの活動を行った際に、アメリカではどうなのか Wahl-Coates E. S. の人たちに尋ねてみようという気持ちを引き出すものと考え。また、国際交流に関する校内の部局とも連携をして、学校としてどのような交流を進めていくのかということをより具体的にしていきたい。